

73 肌着に付着する Cl 量と細菌数 (第2報)

京都大工 庄司 光
大阪市大 中島 清子
花田嘉代子

1 第1報では春夏秋の季節服を着用した場合、部位別に肌着に付着する Cl 量と細菌数に就て述べた。今回は、引続き冬の成績を加えて季節別・部位別に比較をし併せて着用日数別・肌着材料別・被服層別の各比較の概要を報告する。

2 被検者は成人女子 2~6 人、清浄な肌着衣服を所定時間着用させた。試布は 2cm^2 のキャラコ布を各部位に縫付け、所定時間経過後、試布を滅菌的にはずし、滅菌水 50cc 中で振盪し、この液について Cl 量並びに細菌数の測定を行った。

3 (1) 季節別・部位別—Cl 量は夏は各部位とも多く、部位間では腋窩・背が多い。春・秋は夏に次ぎ、部位間では腋窩のみ多い。冬は各部位ともに少く、部位間に差はない。細菌数は同様の傾向で、部位別には四季を通じて腋窩が多い。

(2) 着用日数別—Cl 量は着用日数の増加に伴って増加し、細菌数は着用 3~5 日まで増加し、その後減少する。

3 肌着材料別—Cl 量は木綿 (キャラコ・ブロード・クレープ) が比較的多く、ナイロンは少い。細菌数は概して木綿 (キャラコ) に多い。